第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	2010129
		【継続】の場合の区分	継続		

部等名	課等名	班等名
教育委員会	図書館	奉仕班

事業（予算）名	ブックスタート事業

総合計画体系	施策の大綱	第2章　教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1　地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(1)　生涯学習活動の促進						
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
関連計画・根拠法令等	図書館法							

事業期間	開始年度	開始する理由	終了予定年度	終了する理由
	H16	子育てに絵本を取り入れ親子のコミュニケーションを深めるきっかけづくりと図書館利用の推進を図るため	―	

事業の概要		
	現状（課題・ニーズ）	子ども期の読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造性を高め、人生をより良く生きる力を身に付けるために必要であり、そのためには幼少期から良書と出合い、読書習慣をつけることが重要である。
	対象（誰・何を）	乳幼児健診対象者
	事業内容（課題・ニーズの解決策）	健康推進課で実施している乳児健診に合わせて、ボランティアと職員による本の読み聞かせ等を通じて子どもの情操を育み、親子のコミュニケーションの大切さや読書習慣及び図書館利用の習慣を促し、幼少期での本との出会いの大切さを理解してもらえるよう事業を実施する。
	事業手法	☑ 直営　☐ 委託　☐ 一部委託　☐ 指定管理者制度　☐ PFI ☐ その他の民間活用（　　）
	事業手法選択の理由	本市においては、親子のコミュニケーションの大切さを促す事業として実施しており、関係各課と連携を取ることが重要なため。また絵本を通して親子のふれあいの時間をつくるきっかけになるよう実施する事業であり、直営が適切。
	協働の取組	有　協働の取組内容：職員と共に、健診時にボランティアが絵本の読み聞かせのサポートを行っている。

指標	指標	単位	目標値 H30年度	目標値 R元年度	目標値 R2年度	指標として設定する理由
	開催回数	回	12	12	12	乳児健診の開催回数
	参加者	人	385	345	345	乳児健診の対象者の人数

指標	後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標（後期基本計画）の達成に寄与する理由
	図書館利用者数	人	290,457	320,000	幼少期での読書習慣を大切にすることにより、将来的には利用者の増大につながる。

指標	総合戦略における指標等	単位	基準値（年度）	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標（KPI）の達成に寄与する理由
	妊娠、出産、子育て関係図書の貸出冊数	冊	1,144（H26）	1,400	KPI	幼少期での読書習慣を大切にすることにより、将来的には利用者の増大につながる。
			（　）			
			（　）			

事業コード	2010129

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
ブックスタート事業	教育委員会	図書館	奉仕班

	指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	開催回数	回	12	12	12		12	
	参加者	人	385	321	345		345	

評価	平成30年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	実施対象人数345人中、321人に対して実施し、実施率は95%であった。 乳児検診時に併せて行うことで高い実施率となっている。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	乳児検診時に併せて行うことで高い実施率が期待できることから、今後も図書館ボランティア並びに関係各課と連携を図り、フォローアップ事業を含めて充実させていく。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	2010229

【継続】の場合の区分	継続

部等名	課等名	班等名
教育委員会	図書館	庶務

事業（予算）名	図書館施設管理事業

総合計画体系	施策の大綱	第2章　教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1　地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)　生涯学習の拠点の充実						
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
関連計画・根拠法令等	消防法・建築基準法・建築物衛生法							

事業期間	開始年度	開始する理由	終了予定年度	終了する理由
	H14	図書館開館	—	

事業の概要		
	現状（課題・ニーズ）	図書館建築後16年が経ち施設及び設備の経年劣化による修繕や多くの機器について更新の時期となっている。
	対象（誰・何を）	利用者及び図書館施設
	事業内容（課題・ニーズの解決策）	図書館利用者が安全・快適に利用できるよう図書館施設の適正な維持管理及び計画的かつ適正な修繕や機器の更新を行う。
	事業手法	☐ 直営　☐ 委託　☑ 一部委託　☐ 指定管理者制度　☐ PFI ☐ その他の民間活用（　　）
	事業手法選択の理由	
	協働の取組	無　協働の取組内容

指標	指標	単位	目標値 H30年度	目標値 R元年度	目標値 R2年度	指標として設定する理由
	保守点検項目数	件	10	10	10	適正な維持管理の度合
	維持管理項目数	件	7	7	7	適正な維持管理の度合
	図書館利用者数	人	234,000	250,000	250,000	適正な維持管理の成果による利用しやすさの度合い
	後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標（後期基本計画）の達成に寄与する理由	
	図書館利用者数	人	290,457	250,000	適正な施設維持管理により利用者の増加につながる。	
	総合戦略における指標等	単位	基準値（年度）	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標（KPI）の達成に寄与する理由
			（　）			
			（　）			
			（　）			

事業コード	2010229

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
図書館施設管理事業	教育委員会	図書館	庶務

	指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	保守点検項目数	件	10	10	10		10	
	維持管理項目数	件	7	7	7		7	
	図書館利用者数	人	234,000	241,843	250,000		250,000	

評価	平成30年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	目標値を上回ることができなかったが、予定していた施設設備の維持管理を委託等により適正に執行することができた。また、突発的な修繕についても概ね速やかに実施することができた。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	目標を達成するためには、図書館利用者が安全・快適に利用できるように適正な維持管理と修繕箇所が発生した場合は速やかに対処することが重要である。なお、図書館建築後16年が経過し施設・設備の老朽化が目立つことからことから財政状況を鑑み計画的な改修や更新を目指していく。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	2010229

【継続】の場合の区分	継続

部等名	課等名	班等名
教育委員会	図書館	奉仕班

事業（予算）名	資料整備事業

総合計画体系	施策の大綱	第2章　教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1　地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)　生涯学習の拠点の充実						
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
関連計画・根拠法令等	図書館法 富里市立図書館の管理及び運営に関する規則							

事業期間	開始年度	開始する理由	終了予定年度	終了する理由
	—		—	

事業の概要	現状（課題・ニーズ）	図書館は「地域の情報拠点」として、市民が自ら必要な情報を収集し、現状判断や意思決定を行うための情報提供施設として、その役割は大きく期待されている。 図書館サービスの基本である資料の収集・提供機能の拡充が求められている。
	対象（誰・何を）	利用者
	事業内容（課題・ニーズの解決策）	市民の意思決定に貢献できるよう、各分野の資料を幅広く選択・収集し提供を行う。 また古くなった資料や貸出しが減った資料の除籍を行い、資料の鮮度を確保する。 一般書、児童書、郷土関係資料（すいか・馬関係）、視聴覚資料、雑誌などを収集し、利用に供されるよう整備・保存し世代を超えての活用を図る。 図書館資料を通じて必要とする情報を提供し知識、探究心の向上を図り、地域における知の向上を目指す。
	事業手法	☑ 直営　☐ 委託　☐ 一部委託　☐ 指定管理者制度　☐ PFI ☐ その他の民間活用（　　）
	事業手法選択の理由	平成27年度に図書館協議会において「建議」としてとりまとめられ教育委員会議に報告された「図書館運営のあり方」の方針により、現体制の中で市民サービスの向上に努めるとなった。
	協働の取組	無　／　協働の取組内容：

	指標	単位	目標値 H30年度	目標値 R元年度	目標値 R2年度	指標として設定する理由
指標	図書館利用者数（来館者数）	人	234,000	250,000	250,000	常に新しい図書を提供することで利用者の増加が期待できる
	貸出者数	人	52,000	55,000	55,000	購入冊数を確保することにより貸出者数を維持する
	貸出冊数	冊	201,000	207,000	207,000	購入冊数を確保することにより貸出冊数を維持する

後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標（後期基本計画）の達成に寄与する理由
図書館利用者数	人	290,457	320,000	利用者の要望に応えるとともに適切に蔵書の入替を行い資料の鮮度を確保することで利用者数の向上に寄与する。

総合戦略における指標等	単位	基準値（年度）	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標（KPI）の達成に寄与する理由
児童書を中心とする団体向け図書の貸出冊数	冊	6,727（H26）	8,000		調べ学習用の資料を充実させることが貸出冊数の増加につながる。
妊娠、出産、子育て関係図書の貸出冊数	冊	1,144（H26）	1,400		市の子育て応援事業により高まる子育て関連図書への要求に対応できる。
		（　）			

事業コード	2010229

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
資料整備事業	教育委員会	図書館	奉仕班

	指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	図書館利用者数(来館者数)	人	234,000	241,843	250,000		250,000	
	貸出者数	人	52,000	54,771	55,000		55,000	
	貸出冊数	冊	201,000	206,972	207,000		207,000	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	図書購入費は平成29年度から平成30年度にかけて大きく減額されたため来館者数も大きく減少したが、厳選した選書に加え県内自治体の図書館から借用を行い、市民が必要とする情報提供を行った。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	図書資料を購入し、蔵書の鮮度を維持していくことは、市民が必要とする情報を提供していく図書館の根幹となる事業である。 平成29年度、平成30年度において、大きく予算が減額されており『市民自ら必要な情報を収集し現状判断や意思決定を行うための情報提供施設としての役割』を全うできないため予算の確保に努める。 平成30年度の各指標の見直し及び令和元年度以降の目標値を見直した。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	2010229
		【継続】の場合の区分	継続		

部等名	課等名	班等名
教育委員会	図書館	奉仕班

事業（予算）名	学校開放型図書室活用事業

総合計画体系	施策の大綱	第2章　教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1　地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)　生涯学習の拠点の充実						
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
関連計画・根拠法令等	図書館法 富里市立図書館の管理及び運営に関する規則							

事業期間	開始年度	開始する理由	終了予定年度	終了する理由
	H18	遠隔地の利用者の救済や図書館資料の利用促進を図るため	R2	市の財政状況並びに利用状況

事業の概要		
	現状（課題・ニーズ）	地域に根ざした運営を行っており、遠隔地利用者の利便性の向上などを考慮し運営している。
	対象（誰・何を）	利用者
	事業内容（課題・ニーズの解決策）	図書館の簡易的なサービスを受けられるサービスポイントとして、浩養小学校内にある市民図書室の運営
	事業手法	☑ 直営　☐ 委託　☐ 一部委託　☐ 指定管理者制度　☐ PFI ☐ その他の民間活用（　　）
	事業手法選択の理由	本市においては、図書館を直営で運営しているため、市民図書室も同様に直営とする。
	協働の取組	無　／　協働の取組内容：

指標	指標	単位	目標値 H30年度	目標値 R元年度	目標値 R2年度	指標として設定する理由
	開室日	日	146	146	146	遠隔地利用者の利便性を確保することにより開室日を維持する
	貸出者数	人	300	300	300	遠隔地利用者の利便性を確保することにより貸出者数を維持する
	貸出冊数	冊	600	600	600	遠隔地利用者の利便性を確保することにより貸出冊数を維持する
	後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標（後期基本計画）の達成に寄与する理由	
	図書館利用者数	人	290,457	320,000	遠隔地利用者の利便性の向上を図ることにより、利用者の増加につながる	
	総合戦略における指標等	単位	基準値（年度）	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標（KPI）の達成に寄与する理由
	妊娠、出産、子育て関係図書の貸出冊数	冊	1,144（H26）	1,400	KPI	幼少期での読書習慣を大切にすることにより、将来的に利用者の増加につながる
			（　）			
			（　）			

事業コード	2010229

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
学校開放型図書室活用事業	教育委員会	図書館	奉仕班

	指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	開室日	日	146	146	146		146	
	貸出者数	人	300	237	300		300	
	貸出冊数	冊	600	367	600		600	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	図書館から遠い地域の市民にも図書等の資料・情報を提供することが可能になり市民の利便性に貢献しているが、利用者は減少している。一方で浩養小学校に併設する浩養幼稚園の園児の利用もあり、学校開放型図書室の利点が生かされているため、一定程度の効果があったと判断。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業内容の見直し(改善)
		今後の方針の理由及び今後の予定	学校開放型図書室は、学校が地域の生涯学習の拠点としての役割を果たすことにより、学校と地域の連携を高め教育活動の充実や生涯学習機会の進展、学校図書館の機能の高度化などを推進するものである。 浩養小学校に設置された市民図書室はその機能の一部を図書館が担うものであり、その役割は図書館のサービスポイントとして位置付け、市民サービスの向上に努めていくものであった。一方で、社会情勢や教育現場の変化に伴い地域図書館としての機能が薄れ利用者が減少している状況であり、利用実態に比して人的資源の投入が負担となっているため、事業の縮小並びに廃止について検討していく。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	2010229

【継続】の場合の区分	継続

部等名	課等名	班等名
教育委員会	図書館	奉仕班

事業（予算）名	図書館電算事業

総合計画体系	施策の大綱	第2章　教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1　地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)　生涯学習の拠点の充実						
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
関連計画・根拠法令等	図書館法 富里市立図書館の管理及び運営に関する規則							

事業期間	開始年度	開始する理由	終了予定年度	終了する理由
	H14	図書館電算システムの導入	—	

事業の概要		
	現状（課題・ニーズ）	電算システムやホームページの向上により利用者の利便性と業務の効率化を図る。
	対象（誰・何を）	利用者
	事業内容（課題・ニーズの解決策）	図書館システムを導入して図書館資料の管理及び利用者の利便性の向上を図る。
	事業手法	☐ 直営　☑ 委託　☐ 一部委託　☐ 指定管理者制度　☐ PFI ☐ その他の民間活用（　　）
	事業手法選択の理由	図書館情報システムLINUSを導入することにより、効率的な図書館業務を行うため
	協働の取組	無　／　協働の取組内容：

指標	指標	単位	目標値 H30年度	目標値 R元年度	目標値 R2年度	指標として設定する理由
	貸出者数	人	52,000	55,000	55,000	システムの安定稼働と利便性を確保することにより貸出者数を維持する
	貸出冊数	冊	201,000	207,000	207,000	システムの安定稼働と利便性を確保することにより貸出冊数を維持する
	ホームページアクセス数	数	69,600	75,000	75,000	システムの安定稼働と利便性を確保することによりHPｱｸｾｽ数を維持する
	後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標（後期基本計画）の達成に寄与する理由	
	図書館利用人数	人	290,457	320,000	電算システムにより、利用者の利便性と業務の効率化を図ることにより、利用者の増加につながる	
	総合戦略における指標等	単位	基準値（年度）	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標（KPI）の達成に寄与する理由
			（　）			
			（　）			
			（　）			

事業コード	2010229

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
図書館電算事業	教育委員会	図書館	奉仕班

	指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	貸出者数	人	52,000	54,771	55,000		55,000	
	貸出冊数	冊	201,000	206,972	207,000		207,000	
	ホームページアクセス数	数	69,600	74,042	75,000		75,000	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	貸出者数、貸出冊数の増加には直接結びついていないが、業務の効率化には寄与しており、マンパワーの削減につながっている。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業内容の見直し(改善)
		今後の方針の理由及び今後の予定	現行の図書館システムは導入から5年を経過し更新時期を迎えているが、財政状況に配慮し、段階的に更新していく。 また、図書館の新たな利用形態を検討し、セキュリティの確保など一定のサービスレベルを維持しつつ、経費の節減に努めて行く。 尚、平成30年度の各指標の増減が顕著であるため、令和元年度以降の見直しを行った。
	令和元年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	